

## 〔座談会〕

# 田辺キャンパスを語る

田辺校地に国際高校が開校してから十三年目、大学と女子大学は八年目に入ります。一つの節目にさしかかった感があります。

そこで、来し方を振り返りながら、これからの田辺校地のあらまほしき姿を語り合う機会を持つことにしました。

大鉢	忠	(大学工学部教授)
臈谷	寿	(女子大学教授)
土山	登	(国際中高校長)
星名	倫	(大学経済学部教授)
司会 釜池	進	(大学・言語文化教育研究センター教授)

釜池 同志社の略年譜によりますと、「一九六六（昭和四一）年に校地不足の対策として田辺町に九十九万平方メートル（約三十万坪）の土地を買収」とあります。それが利用されることになりましたのが一九八〇（昭和五五）年の同志社国際高校が開校されてからということになります。そして一九八六（昭和六一）年に同志社大学と同志社女子大学が田辺校地で開学し今日に至ったわけです。

そこで、まず最初に田辺校地を利用されたいちばん先輩になります国際高校の校長先生から、その経緯を少しご説明いただきたいのですが。

### 田辺校地開校の諸条件

土山 国際高校はご承知のとおり、同志社百周年の記念事業と一つとして計画されました。私は当初から開設の担当を命ぜられました。帰国子女の受け入れを行うことから、国からの補助金の交付も受けるということになり、文部省との関係もありました。設置場所は、田辺校地と決まり、それで田辺町との交渉についても私は若干タッチをしました。そのときは田辺町も、同志社は本来に来てくれ

るんだらうかというような疑いの目を最初はもっていたように思います。地元の方との交渉については本部、あるいはその当時、初代の校長となった仁井先生が田辺町住宅の方との交渉はされて、私自身は出席しておりません。ただ、そのときに幾つかいろいろと課題があったり、ご注文があったりしたということとは間接的に聞いております。その後の中学の設置のときには、地元の住宅の方との交渉には私も出席いたしました。そのときは、ここにご出席の星名先生が会長でいろいろお世話になりました。

当初、同志社が帰国子女受入校をつくろうというので計画したものは中高併設だったのですが、諸般の事情から、高等学校だけで発足しました。

田辺の土地自体について過去いろいろの経緯があったようです。私自身は、その経緯についてはあまり知りませんが、あそこは緑地帯として残すんだというような約束があったとかなかったということもきいたことがあります。ただ、高等学校の土地としてはL字型であるので、もうひとつ使い勝手が不便な部分はございました。まあ、だいたいこんなと

ころです。また後ほど。

**釜池** もう一つお聞きしておきたいのは中学校をつくられたことについてですが、ことしで四年ぐらいいなるのですか。

**土山** 一九八八年につくりましたので五年目になります。

**釜池** これは高等学校ができて、そして一応体制が整ったから中学校というふうに常識的に考えてよろしいんでしょうか。

**土山** はい、そうです。やはり同志社の場合は中高一貫教育というのが学内の他の中高でも普通の形でございましたから。

それからもう一つ、私どもとしては帰国子女を定員の三分の二受け入れているわけなんです。一たん日本の中学へ入ってから、私どもの学校へ入ってくる生徒もかなりおるわけなんです。それらの生徒に聞いてみると、公立の中学でいじめられたとか、あるいは中には先生にも煙たがられる。だから、ずいぶん長い間アメリカならアメリカに住んで、英語が達者なはずの生徒が日本風の英語の発音をしたりするのです。事情を聞いてみると、中学の先生にいじめられるというか、煙たがられて、自分で日本風に発音を変えちゃう。

これはまことに残念なことで、これはやっぱり私どもで中学をつくれれば、そういうことも避けられると考えました。

**釜池** わかりました。そしたら女子大のことを少しお聞かせいただけませんかでしょうか。

**脇谷** 私、女子大に赴任しましたのは一八五年の十月ですので、私が来たときにはすべて決まっておりました。ただ、漏れ聞いたところによりますと、教授会で数票差で田辺移転が決まったということと、それからこれは将来を見越しての経済的な理由が強かったため皆さん了承したとのがあったようです。同志社としては初めて短期大学という学校を持つわけで、私は赴任早々に宣伝を兼ねて、近畿圏のかんりの高等学校をまわりました。応対に出た進路の先生は「同志社が短大をつくるんだしたら、それは人は集まりますよ」と口を揃えて言っていました。現にすごい高倍率で第一回目の生徒は入ってきております。そういうことがありましたけれど、ただ、女子大の場合に非常に問題があったのは、それまでは横割りの決定できていたのが、開設直前になって縦割りに変更したという、そうい



土山 登氏



巖谷 寿氏



大鉢 忠氏

うところで教授会でかなりどろどろしたものが  
ありました。

短大がスタートして、田辺のキャンパスは  
若い学生でにぎわったのですが、ただ、その  
中においても、まだ田辺移転に反対をする風  
潮もありました。四年制では当初、家政学部  
移転の話もあつたように聞いておりますが、  
経済的な理由などもあつて、結果的には音楽  
が移りました。音楽は非常勤の手当てとかホ  
ールを使つての演奏会を考えると場所的には  
今出川がいいのでしょうか……。先発隊とし  
ての痛み分けということもあつてか、頌啓館  
という立派なホールをはじめレッスンスム室ほ  
か今出川のとときは比較にならないほどにすば  
らしい設備が出現しました。

短大ができてから二年後に日本語日本  
文学科という、学芸学部の中に新学科が開設  
しました。しかし最初はこのネームの学科で  
はなく、もつとグローバルな国際文化、あ  
るいは広い意味での日本文化を視野に入れた  
日本文化学科という新学科の創設がある程度  
決まって、人件も固まっていました。その中  
には比較文化、日本文化、日本文学という三  
コースをつくるということも。ところが、横

割りから縦割りへという問題が生じ、種々の  
点で難かしくなり、結果としてそれがだめに  
なり、単コースの日本語教育にウエイトをお  
いたものを置こうということで日本語日本文  
学科ができたのです。こういうわけで田辺に  
短大、日本語日本文学科ができ、そこへ音楽  
学科に続いて英文学科が一九八九年から移転  
を開始し、一九九一年で英文の全部が向こう  
にそろつたわけです。その時点において、今  
出川は家政学部だけということになりました。

こういうことで二校地制をとっているわけ  
ですけれど、いま私が責任者になっている図書  
館について言いますと、縦割りですので、比  
較的いまのところ、図書なんかは家政系統の  
ものは、今出川に重点的に置き、それ以外は  
田辺の図書館に置くように努めています。も  
ちろん、両方に設置しているものもあります。  
ただ、図書館全体としては、建物が田辺では  
未完成ですので、作業の多くは今出川でやっ  
ております。ですから購入した本は整理のた  
めに、一たんは全部今出川へ入ってくるわけ  
です。そこで登録その他終わってから田辺用  
の本は宅急便で送られるということになりま



星名 倫氏



釜池 進氏

した。このため余計に時間もかかるし、経済的にも無駄があります。しかし、これは建物ができるまではしかたのないことです。一応予定では、現在ある図書館の建物の同志社寄りのほうにもう一棟建てることになっており、一九九七年に建設ということになってはいます……。図書館のみに限らず二重生活

は無駄と不便が多いことは免れません。

女子大は同志社大学のように世帯が大きくありませんので、やっぱり事務も一つにまとまったほうが効率がいいというのが皆さんのご意見のようです。先生も授業で行ったり来たりということは当初から見ると、かなり緩和されましたが、一部にはありますし、そういう点での不便さというのはぬぐえません。やむを得ないことです……。

以上のような事情でございます。

**釜池** 同志社大学は、中心校地問題が従来からありまして、新しい学部、学科等をつくらうとすると、今出川校地だけでは中心校地として文部省に絶対認めてもらえないため、田辺校地の利用が評議会で決定されていたのですが、実現に向けては紆余曲折があったわけです。また、工学部の充実や拡大を考えると、いわゆる中心校地問題を解決しなければならなかったわけです。

それから体育施設が今出川周辺、あるいは岩倉、御所などに散在していて、非常に自由な状態になっていたという環境が田辺校地の利用によって一気に解決されるという希望もあったわけです。そして一年生と二年生の

授業を田辺校地で行うところから一九八六年に開校ということになりました。二校地制というものにもかなりなれてはきましたけれども、まだまだいろいろな諸問題を抱えております。

それから一九九四年、来年度から工学部が田辺校地を利用して、全面統合、移転するという運びになりました。そこで工学部について大鉢先生に少しそのあたりのことも含めて、工学部の立場から田辺校地の利用というものをちよつと経緯を含めてお話しただきたいと思っております……。

**大鉢** 私が話させていたく前に、大学が一九八六年に移転をした当時、星名先生が責任者をされていたので、大学の立場としてその辺のところを——体育はまたべつとしまして、お話しただいた方がよいのではないのでしょうか。

**星名** 要するに三十年前、われわれまだ学生だったころには、いまの一学部分しか学生はいなかったわけですね。ほんの何千人が今出川でね。それがいまの学生数になってしまったから、先生がおっしゃったように、中心校地の問題とか、一坪当たり学生何人とか、

文部省に怒られてね。

ただ、そのかわり、六九年の大紛争のころ、学生の反対があつてなかなか移れなかつて、それで万やむを得んということと、それからあそこ三十万坪のうち十七万坪を買収して、近鉄がその周辺の使えない山林なんかをくつつけてくれたんですね、だから三十万坪になつている。にもかかわらず、ちつとも大学は来ないじゃないか、利用しないじゃないか、返せというような田辺町やらの声が出てきて、それで思い切つて行こうやということでは六年開校にこぎつけたわけです。一つはそんなこと——いま女子大のほうの音楽学科が行くというので、行つてくれるんだからというて(笑)、教授会スーといったのと一緒で、体育なんかも施設があればとれるのはあそこしかない、行きましようということであつちへ行つたから体育施設は立派です。あそこは広いしね。

ずつとなされずに、十七年かかつて来年それが実現いたします。いまのままではなくて、充実した形で統合移転を来年度、新しい学科として知識工学科を一つ新設、それから化学系のいまの工業化学科と化学工学科の二つの学科を新しい学科につくり直し、物質化学工学科と機能分子工学科という新しい学科にし、機械系が名前を変え機械システム工学科と、エネルギー機械工学科にします。電気系の電気工学科と電子工学科は従来どおりで七学科体制を田辺ではとります。

それから建物に関しましては、もう今年の十二月の二十日には引き渡しということをお願いしております。現在の建物の一・五倍の面積になるそうです。三系列の独立した建物が中央の事務室や共通図書室を通じましてつながっております。そういう工学科系の建物と、理工学研究所の建物、それから共同実験棟に、大型施設で購入した装置を置きまして共同で利用できる。図書室もいままでは各系列で三つあったのを一つにして、共通の工学図書室として充実します。まだ規則なんかは決まっておりますが両者とも卒業生を含めましてご利用いただければと計画しています。これが工学部の現状です。

#### 国際高校の誕生―帰国子女教育

釜池 将来展望については、あとでお話ができるかと思ひます。

このような経緯で国際高校、女子大、大学が田辺校地を利用するようになったというところでございます。

そこで、田辺校地の立地条件、教育環境へ少し話を進めたいと思ひます。私もが来た八年前には国際高校がすでに開校し、あれだけの数の学生が来ていたわけですが、もし国際高校もなく、われわれが初めてそこに移ることになったならば、行くことにもつと抵抗があつたのではないかと思ひます。すでに国際高校があそこで開校していて、そしてかなり高い評価を得ていたということが一つの引力となつたように私自身は感じております。

当時としては新しい帰国子女教育を行うにあつてはその期待にもこたえなきやならないう問題と、どういうカリキュラムで新しいことをやるのかということ、それから田辺という環境、立地条件などがからんでい

いろご苦労もあったと思うんですが。

土山 先ほども申しましたように、文部省の立場として、国から補助金を交付するには、国としてはやっぱり私学に任せっ放しというわけにはいかない。そこで、文部省、同志社と、それから京都府、文教課の三者で構成さ



れる協議会ができてまして、そこでどういう教育をするのかということが決められていったわけです。たとえば帰国子女を定員の三分の二受け入れるということも、文部省からの指導で決まり、それからカリキュラムについても、文部省からいろいろ注文が出ました。何よりも私のほうが当初苦労したのは、帰国子女教育について、私自身もまったくの素人でございましたし、それから関西には、まだそういう帰国子女教育を専門的にやっている学校は一つもなかったわけなんです。それで、しばしば東京へ行きました、たとえばICUですとか、あるいは啓明ですとか、東京は幾つか古くから帰国子女教育を扱っている学校がございましたので、そういったところへ行つてはいろいろ教えてもらつて、それをまたカリキュラムの中に反映させるとか、いろいろ苦心をしました。

ですからそういう面では、本当に帰国子女を受け入れるまで、一体どういう生徒が入ってくるのかということがなかなかつかめなくて、観念的にはいろいろ議論もいたしました。たとえば建物の設計で、トイレについてジャパニーズスタイルとウエスタンスタイルの二

つがあります、それをどういう割合でつくつたらいいのか(笑)。海外の子供はジャパニーズスタイルでは困るのではないかと。そうすると、どれぐらいの割合にしたらいいのかというような、いまから考えればかばかしいんですが、そのときはまじめに議論したり、そういうようなこともございました。

釜池 国際高校のことについては、私たちは案外中身は知らないんです。同じように女子大のことも大学の人間はあまり知りませんし、女子大の方も大学のことはあんまりご存じないし、まして国際高校のことはあんまり知らないわけです。推薦入学制度はありますけれども、中高大一貫した教育の流れというシステムの中で、とらえているというあたりでとまっています。この情報、交流の不足は田辺校地だけの問題ではなく、学内中高と大学・女子大学全体にあてはまることだと思つているのですが。

国際高校では帰国子女の比率が非常に大きいので、国際理解を育てる雰囲気というものが濃いと思うんですね。そうすると、国際高校ではいろんな言葉が入り混じることでしょうし、文化的な摩擦は個人的なレベルでも出て

くるでしょう。そういう中で国際理解というものはごくむ環境があると思うんですけども。

**土山** やっぱり帰国子女はいろいろ特性をもっておりますし、海外で長期間生活をした生徒たちは、自我というものもかなりしっかり持っております、自分の意見というものははっきり主張するというような面もございます。ですから、学校に対しても遠慮なくいろいろ注文もつけますし、あるいは生徒会活動なんかもやっぱり帰国生徒が中心になって積極的に取り組むという面がございます。

それから語学の面でも、やはりかなり高度な力を持った生徒がいる。ということは、逆にいうと今度は日本語に問題のある子供もいる。適応ばっかり考えてしまうと、今度帰国子女の特性をつぶしてしまうことにもなりかねないし、かといって、それじゃ帰国子女の特性だけ考えて、それを伸ばすだけ考えた方がいいのかというと、そうも言えない面も出てくるわけですね。

たとえば帰国子女も聞いてみますと、ほとんどがやっぱり将来、日本の企業で働きたいという生徒が多いんです。そうしますと、や

っぱり日本の習慣というものも心得させておかないと、要らんトラブルを起こす可能性があるんです。たとえば、国際高校の一期生には先輩がいませんでした。そのまま同志社大へ進学して、いろいろ評判になったことがあるんです。先輩をつかまえて、「ハイイ」と言ってみたり、敬語を使わなかったりしたことがあった。あるいは教員が机をはさんで女子の生徒と話していても、平気で机の上に足を乗せてしゃべり出したこともあるようなんです。それは非常に日本の社会では失礼なことだというようなこともやっぱり教えておかないと、将来、社会人になったとき、困るのではないか。

**星名** 土山先生にそのこと一回言ったことがありますね。あの坂ね、国際高校の子ね、坂、しんどいでしょ。車道へ出てきて、ヒッチハイクのまねするんです。朝ね。だれでも車をつかまえて乗ったらええと思ってる(笑)。女の子たちにそんなことしたらいかんよというて、知らん車に乗ったらいかんよというたことありますね。だいたいそういうふうな風習が違ふところから帰国して来た生徒達だから、いろいろ違ふ。

**釜池** いまの土山先生のお話をもう少し発展させて、国際高校について、何か質問ございませぬか。

**藤谷** うちにも国際高校から何人か来てくれるけれど、見てますと、みな活発ですね。それで、あんまりそういう礼儀で失礼な点は私は気付きません。それほど親しく話したりしてませんけど。ある部分では、とにかく学生をリードしている人が多いです。生徒会に入ったりとか、クラブで頑張ったりとか、キャンプに行ったりということ。ただ、彼女たちが言うのは、私は三年間田辺で学んだんだから今出川に行きたかったと、今出川に行こうと思ったら女子大は家政しかないし、同志社へ行こうと思うと、ちょっと点が高くてという話をしていてね。やっぱり今出川の校地にあこがれるというのは多いみたいですね。もう三年で十分やということを言ってます。

**大鉢** 私のところは国際高校に、子供が世話になりましたね、そういう意味では、内部のほうからも国際高校を少し見せていただいて、いま土山先生がおっしゃったように、やはり通常の学校と生徒さんが全然違いますから、先生方非常にご苦労なさっているとい

うことはわかりますね。

国際高校、いろいろ試行錯誤されながら、新しくどのようにしたらいちばん子供たちが伸びるかというをお考えいただいているようで、今後いろいろなそういう努力をしていただけたらと思いますね。

星名 国際の寮は十分ですか。キャパシティー、入れもの。

土山 いまのところ。

釜池 晩は寮だけしか人がいないという環境の中で、地域との問題は全然なかったわけですか。寮生から苦情が出るとか。

土山 当初、あの辺は寂しく痴漢なんかも出たりしましたが、大学が移転してからはわざわざになりました。しかし今でも、女子寮だけはクラブ活動なんかで京都市内で競技しませて、帰ってくるのが七時以後になるんだつたら、必ず顧問の教員が引率して寮の入り口まで送る、こういうことをいまでもやっております。

藤谷 七時以降はもうそういうふうには。

土山 はい、七時までだったら本人だけでも帰ってもいいけれども、やっぱりそれは安全を考えてそういうことをやっているわけ

すね。

釜池 いま女子の方でどのくらい入っているのですか。

土山 八十人ぐらいですね。

釜池 男女は同じぐらいの比率ですか。

土山 男子はほかにホームステイもありますので、それを含めるとちよつと男子が多いです。

それから、このごろはありませんが、過去にバイクなんかに乗ったのが女子寮の生徒を冷やかに寮の周りへ来たりして、ということも何回かございました。しかし、なんか具体的被害を受けたということはいまのところございませんけどね。

釜池 ついでにもう一点だけですけれども、大学が八八年に移転することを決定し開学の運びになった頃、また、実際に来てみて、どういう受けとめ方をされたのか、ちよつとお聞かせいただけますか。

土山 これはもう私のほうとしてはやつぱり大歓迎でございます、先ほども申しましたように、私どもの学校だけのときには非常に寂しいところで、たとえば一週生を送るときに、在校生が送迎のセレモニーで、その当

時は大学へ進学すると今出川へ行くわけなんですけれども、「都会の生活に疲れたら、いつでも田舎に帰っておいで」(笑)、というような幕を出したりしていたこともありましたが、それぐらい寂しいとこだつたんですけれども、大学が移転されてから歩道橋もできましたし、それからJRの駅もできました、便利さの点でも非常によくなった。

しかし一方、私はあんまりそういう方面の知識がないから気づきませんが、野鳥はあまり飛んでこなくなつたということを、その方面に詳しい先生がいつております。かつて見られたような鳥がちよつと四、五年来なくなつたと。

星名 国際高校のとき、昔はキジがおつたし、山鳥がいたしね。まだ、大学の奥にはいますけど。

#### 両校地に対する学生の人気

釜池 それから、田辺校地と今出川とよく比較されますし、教育、研究、学生生活の面で、受けとめ方が学生の間にも二つあるようです。一つは今出川へ来てみたけれども、暗い、建物も汚いところがあるとか、せせこまし

いから私は田辺のほうがるるきてきれいでいいという学生もいるんですね。そうかと思うと、やはりこちらのほうが交通の便もいいし、それからすぐ街へも出れるし、古い伝統的な建物で落ちついて、こちらが好きだという学生もいるわけですね。

**臈谷** 女子大の場合は、後者のほうが圧倒的に多いですね。女子大の場合のご承知のように、卒業式と入学式だけ今出川なんですよ。そのほか、彼女たちが来るとしたら、例の文化祭のときだけなんです。それが、どうやら最初にちらっといい環境だけを見せ、学ぶのは田辺というのが、いかんようです。いつそ田辺で入学式、卒業式もやったら知らないで済む、ということがあるかもしれない。

いっぽう、設備の点では圧倒的に田辺がよくて、今出川は何一つとっても悪いんですよ。それでも彼女たちは今出川志向が強いですね。とくに地方から来た子が嫌がるようです。これだったら自分たちの田舎と変わらない、せつかく都会へあこがれてきたのにと。御所の北というのにあこがれをもっている学生はやっぱ、とくに女子大の場合は多いですね。

それで大学は二年で移れるのでうらやましいと。それに比べて自分たちは終身刑だと(笑)。住居も最初は、田辺の近くに下宿するんですけど、親が強制的にさせるようですけれども、だいたい二年ぐらいますと街へ出れるような便利な所に変っている人が多いようです。これはアルバイトのこともあるんでしょうけどね。中にはみぎわ寮から田辺まで通っている人もいます。住居は街なかという気持ちは強いようですね。

**星名** それは大学も一緒ですね。

**大鉢** でも、先生、田辺側が活性化してきますすと、来年以降は工学部が行きますと変わるかもしれません。

**臈谷** そうなんです。だから田辺がもうちょつと活性化したら、これ逆転すると思うんですよ。

**釜池** しばらくかかると思いますね。

**星名** 初め、同志社は岩倉とかなんか下宿してるの多かったですよ。田辺に行ったときにみんな来ないと思っただですよ、土地の人間は。それで下宿を建てるのもためらってたんです。そしたら足りなくなりました。一それで今度はボンボン建てたんです。一

人が田んぼつぶしてビルを建てたらみんなが建てるから、今度はいっぱいできてしまつて、余ってしまった。いまは何とか需要と供給のバランスがとれている。学生は要するにアルバイト、遊ぶこと、学校へ行くことで、そして二年後にはその終身刑と違うからこつちへ来るということで中間をとってね、下宿は丹波橋とか桃山の、あの辺が多くなっていますね。

**臈谷** 女子大の場合、田辺に立派なAVという施設がありまして、利用度が非常に高いのです。映画もいろいろ入れておりまして、席をとるのに順番待ちができることがよくあります。その点、今出川の方は閑古鳥です……。これは何でだろうかというのと、食物学科のような実験の多いものと他との体系の違いも多少ありますが、要するに田辺は時間が空いても行くところがないわけです(笑)。そうになると、図書館か映画でも見ようということになるわけです。ちょうど一時間半ぐらいの映画が多いということで殺到するんですよ。いっぽう今出川の学生は九十分を利用して街へ行くことも可能です。

## 田辺校地へのアクセス

### — 京阪奈の視野から

**釜池** いまは地下鉄もできましたし、パツと行つて、パツと帰ってくる、一時間プランクがあるよね。これが可能になりましたね。

立地条件とか教育環境の観点から、女子大短期大学、今出川校地の比較というように話に移ってきましたが、今出川と田辺という二校地の比較だけでいつも終わっているように思ふんです。関西圏という規模から考えた場合、京阪奈学術研究センターがああいう形で整いつつある。京阪奈は来年の九月に関西新空港が開港することになったので、その視野で見ているようですが、そういうような関西の中で田辺校地というようなものを一ぺん考えてみたいと思います。

**星名** あれは世の中の人が間違っているんです。学校関係と違う人の話でも、あそこに学研都市ができる。だからそこへ同志社が来たと思つている人が多いですね。それで、「ほか言え、同志社があるところへ学研都市が来たんだ」と、そう言つて訂正するのですけどね。

**臈谷** ただ、学研都市でもほかの行政体を

見ますと、かなり市町村が協力的ですよ。その点、田辺町は、どちらかと言つたら余り動かないでしょう。普通は大学が行くにつけて受け入れの市町村がかなりお金を出して、いろいろ受け入れ態勢をやるんですけど……。たとえば大津なんかその良い例で、龍谷大、立命館大の場合、土地は無償提供で、そのうえ経済的にかんがりの援助をうけている。その点、同志社は移転に際して相当なお金を使っているわけでしょう。

**星名** これはオフレコでもええけど、あのときだいたい予算をオーバーしたんです。それは木津川の補償とか、それから校地内に二ヶ所ダムをつくつたでしょう、あれとか。

**臈谷** これは逆なんですね、それは市町村が準備してでも大学に求めてもらうというような形なのに……。やはり田辺町という体質が問題だと思います。加えて、大学の辺りがもつと活性化しないといけませんね。そのためには田辺町が中心になつて町おこしをやらなといいけないと思います。

**星名** 竹下元総理が一億円くれたときに、田辺町ももつたんです。それをいかに使うかという活性の会の会長に私が当てられまし

て。町おこし。それで結局、交通網とかプロムナードとか、ああいうものをちゃんとしよう。だけど一億円位ではとても足りない。だからあれを町の予算とまぜて、あそこに遊歩道をつくつたり、そういうのに八千万ですか、あとの二千万は町の青少年の国際交流をするのに、使うことにしたんです。とにかくいちばん最初に向こうは同志社が来たとき、学生に車で来るなどか、人口が四万五千しかないところへ一万人学生が来て、そのためにあの道路標識を替えなきゃならないとか、町民税でそんなことはできないからというて、逆に同志社、あれつくれ、これつくれというてきたんです。

**釜池** 興戸駅からの道、歩道橋も含めてかなりかかったようですね。

**星名** 六億かかって、駅が二億、半分同志社の負担ですね。だけど、学生はあれを使わないで、下を歩いてね。

**臈谷** そうですね、上、使わないですね。ほとんど下を歩いちゃいますね。

**星名** 六十段ある階段がいやなんです。

**大鉢** 学研都市という話が出ていますが、やはりJRRの学研都市線がこちらの京都の近

鉄線以外の別の動脈になりますね。いま徐々に、利用がかなりふえてきてますが、まだ少ないですね。大阪との交流がものすごく強くなつてきて、大阪と京都と、そして奈良との結びつきが強くなるでしょう。まあ南のほうにほかのいろんな施設ができてきますから、やはり田辺の大阪とのアクセスが、それと空港ができるということを含めていきますと、ちよつと流れが変わつてくるように思いますね。

**釜池** 二十一世紀にはかなり。

**脇谷** じゃないでしょうか。ですから大阪の北部のほうから来る場合、今ですと京都駅とか、あるいは四条烏丸を通じてですね。京阪、阪急を利用してこちらへ来るケースが多いんですけども、直接向こうへ行く場合にはふえてくる気がしますね。

**釜池** 昔はたとえば大阪の南、堺方面に住んでいる人たちは、どちらかというところと、同志社と関学に受かったら関学のほうへ流れていった。ところが、そういう人たちが今度は同志社のほうへ来ている。だから大阪の南の地域から来ている学生が非常に多いですね。

**脇谷** 堺あたりも多いですね。

**釜池** それから先ほど言ったJ Rの片町線ですか、神戸方面に住んでいる先生方もあれを使えるので便利になったと言つてましたからね。

**星名** 三十七分ですね、京橋から。あの線、J Rとそれから京阪奈の道路ね、あれが和歌山にまだつながっていないが、あれが部分開通して、それから第二名神ね、あれが八幡、通るでしょう。それから大阪からは三〇七号線のあの狭かったのが役場の前のところ、いま向こうへ抜ける立派なのが出て、そういうので道路網とか鉄道網は、急激によくなくなつてきますね。

**釜池** それからももう少し近い将来期待できるのは山手幹線、同志社の国際との間に通っている。

**星名** あれは大久保バイパスに抜けることになつている。女子大の前のところですね。

**脇谷** 近々ですか。

**釜池** とにかく近々と聞いています。

**星名** この間、町長に言つてただけで、早く橋をつくれと。橋がでないと、あれ抜けれませんね。もうすぐですといつてました。

**釜池** 少なくとも田辺町、役場のところまでくつつける、あそこは案外かなり早いんじゃないですか。それから京都方面へ抜けていくでしょう。ちよつと時間がかかるんでしょうね。

**星名** いや、もう町議会ではすることになつてははずですよ。

**大鉢** それは同志社だけじゃなくつて、田辺町や学研都市全体の施設に対してのアクセスが整備されるようになりますからね。

**星名** あの道路も同志社がつくつて寄附したんです(笑)。

**大鉢** でも、そういう被害者意識だけで考えた、よその滋賀県の大学のことを考えますと、いろいろ気持ちが穏やかでないんです。逆に星名先生が最初におっしゃった土地を購入するときの状況において、田辺町の方々が同志社にかなり友好的に土地を手放してくださつたことを考えますと、いちがいに田辺町云々と言ひ切れない部分があるように思います。田辺の住民の方々の感情を考えますとね。

**星名** すぐスタートしてたら問題なかったでしょうね。

**釜池** それがある。だから長い間いろんな事情で向こうへ行けなかった。それが私は住民感情にかなり影響している。

**大鉢** それを整理するにはもう少し時間がかかるんですね。

**星名** だんだんよくなってきたいるけどね。

**臈谷** 同志社が行ったことによつて田辺町の人口はかなりふえていますね。

**釜池** ですから来年の時点で人口がまたふえるだろうから、それを計算に入れると来年、市に昇格ができるんじゃないかということが新聞に出てましたから。

**星名** ところが、四万七千人というところからふえないんです。だつて卒業したらまたおらなくなるでしょう、住民登録してもね。それで五万ちようど手前のところでいつたりきりたりきりしたりしてあるんです。

**釜池** 来年になつてもそういう状況になりませんか。

**星名** それがちよつとパツと超えてくれたら市になる。どういう名前にしようて、この前も町長と雑談の時に話してたんです。田辺市というのは和歌山にあるから使えないんで

す。それでどうしようか、一休さんで有名だから一休市にしようかなどいろいろ言つてました(笑)。

**大鉢** 昔、なんかそういうようなことで候補名として、筒城市というのを聞いたことがあります。

施設の利用—国際・女子大・大学の  
共同利用は可能か

**釜池** いままでのお話の中にもすでに出てることなんですけれども、実際にこつちへ来て、教育、研究、文化・スポーツ活動、地域とのつながりというようなことを体験してきました、いまや今出川にはなかつたメリット、デメリットもあるでしょうし、あるいはその他問題もあろうかと思ひます。その辺について、いちばん具体的に出来ているのは、体育関係ではないですか。田辺に全部体育施設を集中して、体育授業も課外活動もできるよつになつたことは第三者から見ると大きなメリットだと思ふんですけれど。

**星名** メリットですけれども、三、四年生は今出川から田辺まで行かんからからね。遠いということはありません。しかし、授業

に關しては、こつち今出川がひどかつたわけなんですね。だつて何も施設がなかつたからね。一度以前に昔の座談会で言つたことがある。

他の授業の先生が教室なしでやれと言われたらどうするのですかと(笑)。だけど、学生数がふえたときでも、大学が「体育は自分らで場所を探せ」というわけです。

**釜池** 教室なしでやれというのと一緒ですね。

**星名** だからスケート場を借りたりね。自分で交渉に行つて、自分で場所を借りて、そしてやるわけでしょう。そんな授業はほかにないでしょう。だからいまの状態で当然だと。そうでしょう。

**釜池** あるべき姿だと。

**星名** 御所を借りていたつて、京都市のものだから、いろんな行事が入つたら追い出されますからね。まあ、そのときは天と地の差だけでも、いまがよくなつたというよりも、やつとまともになつた、教室をもらつたと、そういう感じ(笑)。

**釜池** 女子大のほうは体育関係は施設の如何だつたんですか。

**臈谷** 立派な体育館が田辺にありますの

で、逆に家政のほうはひがんでますけど。今出川は古い建物ですし、施設も全然違いますね。この施設を使って学生はいろんなことができるので非常に喜んでます。しかし、クラブ活動の点では問題があり、今出川にも半分とは言わないまでも、千人余の学生がおりますので……。田辺あるいは今出川に移動して終わら戻るといふことは、効率が悪い。はつきり知りませんが、クラブの部員数も一時より減っているのは……。多くの場合やむを得ず、別々に行なっているのが実態のようです。

**釜池** 国際高校の場合、体育施設は十分ですか、それともたとえば大学の施設を借りて課外活動なんかを現にやられることがあるのでしょうか。

**土山** 国際高校に関しては、体育館は中学、高校それぞれがありますのでいいんですが、グラウンドが狭いですね。しかも私どもの学校はあまりほかの学校にはない、アメリカンフットボール部もあります。これは帰国生徒の要求でできたクラブなんです。ですから非常に窮屈で、グラウンドを二つに割って使ってみたり、野球部なんかは田辺町の野

球場を借りたり、あるいは練習試合を盛んにしたりいろいろ苦労しているわけです。ラグビー、野球それから陸上などは、時々大学の施設を使わせていただいているようです。**星名** うちの野球場で国際が練習していることもあります。

**釜池** そういう交流はもうちゃんとできているわけですね。

**土山** それからプールも正規の授業で、少し使わせていただいているんですけど、距離がだいぶ離れています。

**星名** プールはもともと女子校も岩倉もみな大学のプールを使って割り振りやっていますけど、プール委員会というのは別にあつたぐらいたから。

**土山** 往復に、プールへ行くのに相当時間がかかってしまっていますね。

**釜池** たとえば女子だけの体育のような場合、女子大と何かあるんですか。

**土山** いまのところは全然ございません。

**釜池** それはなくとも何とか賄える程度あるのですか。

**土山** それはやっぱり使わせていただいたら喜ぶと思いますが。

**臈谷** 女子大の場合も広いグラウンドがないんですよ。学生にとつてみたら、わざわざ田辺にキャンパスを求めながら行ってみたら、何となく狭苦しいという印象を持っているようです。増築前はそうでもなかったのですが……。その点、同志社大学の方は非常に広々として、ラーネットの前なんか寝ころべるようなところがあるけど、女子大にはそういう空間がないとこぼす学生がいます。女子大の場合、たしかに建て込んできて少し圧迫感がでてきたように思います。

**大鉢** 経過を見ますと、あのキャンパスは当初全部大学だったんですね。それが国際高校と、女子大の訂正に割り振られた結果、分れてしまいましたが、もともと同志社のものですから、そういう意味では一体のものとして、高校も女子大も大学をもっと利用していただけるような雰囲気が出てくるといいんですけど、なんかいまのところ三つが別々です。

**星名** でも大学の教室棟と奥にあるスポーツ施設が逆だったら、それは使いやすいでしょう。

**臈谷** それと仮に大学のほうの体育施設を

使わせていただくとしても、十五分のスパンで動くのは無理ですね。

だから先生のおっしゃるように、もっと女子大に近い所にあるといいんですが……。まあ五分ぐらいで行ければ言うことないです。

**星名** 大学の中でも移動は大変ですね。さつきもちょっと地域のとこで言おうかなと思っただけど、興戸の駅、あそこからいちばん奥の体育施設へ行く距離が京都市内にあてはめると三条京阪から今出川まであるんですね。

**脇谷** そんなにあるんですか。

**星名** はい。しかもあの坂は距離が六百メートルで標高差が三十メートルあるから、毎日三条京阪から走って今出川へ通うのと同じ運動量になるんです、あそこへ通っている連中は。

**大鉢** いちばん端まで行くとね。そうですね。

**星名** ここまでの出口までがね。出口で三条京阪ね、興戸の駅から。それに京都市はほぼ平らだけど、田辺は標高差があるからね。

**釜池** それでいまのハードの面で、そういうお互いにもう少し利用し合える、あるいは

協力して使えるようなものは当然もっているわけだけれども、カリキュラムの中での時間帯とかそういうもので非常に難しい面はあるようですね。

それから工学部が移転すると、それなりに充実度というものは増すわけですし、厚生施設がいまのままでは足りないの、工学部移転とともに、さらにいまの施設の西側にレストラン等を含めて厚生施設、教職員のものも含めてできつつありますね。現に女子大の学生たちは、大学の学食のほうも来ていらつしやるようにも聞きます。国際高校のほうからも学生さんが食べに来ることもあろうかと思えます。だけれども、その逆、たとえば大学の学生が女子大の施設を利用したり、あるいは何か食堂へでも行って一緒に食べるかという、そういうことがちょっとしにくい。その辺どうなんでしょうか。

**脇谷** どうして男子学生を排除しているのか私にはよくわかりません。過去に事件かなんかがあったのかもしれない。しかし、うちでも話題にのぼっている他大との単位の互換性をおしすすめていくと、もうそんなことは言ってもらえなくなるはず。まして同

志社の中のことなら……。

それから女子大の場合には食堂の問題が大きいです。昼時分には学生であふれかえり、ものすごいものです。とにかく食堂に入っても、そこで食べれない人がです。

**大鉢** そういうところは食堂の相互乗り入れをね、だから男子学生も少しは行かしてもらえるというようにすれば……。

**星名** だけれど、ぼくね、女子大にいまは教えに行っているから、あそこの食堂へ行くんだけれど、あのウワアアというところは一寸食べられない(笑)。いっぱいなんです。あんなとこへ男の子が来たって負けますね。

**脇谷** 食堂はもう大問題になっていて、何か対策を考えないと……。学生部への要求もかなり強力ようです。

**星名** 要するに狭い。

**脇谷** 狭いです。ですからチャペルの時間とかに食べる人も……。食堂にあふれた人は、膳を近くの教室に持ってきて食べるとか、晴れてたら外で食べるとか、しているようです。これが、今出川の場合でしたら食堂が満員になっても、ちょっと出ればありますけど、田辺の方はそうはいかない。

釜池 これはいまのところはまだ計画性はな  
いんですか。

麓谷 ないんじゃないですかね(笑)。

大鉢 お金の問題もありますね。

麓谷 場所とね。

星名 食堂って、坂の下のJ.Rのところに  
あるのと、南門のところにどん屋ができた。あ  
そこはやっていよ、学生もたくさん来て。

釜池 それで、いまその話が出てますから、  
三山木が今後どう開発するかという問題はさ  
ておきまして、興戸の利用が圧倒的に多いわ  
けです。興戸から女子大、大学までの長い坂  
の道路、あの道路は同志社のものなんですね。  
両脇どの辺までか知らないけど。

星名 いや、同志社のものではなくて、寄  
附している。

釜池 あそこは寄附したの。そしたら自由  
に店なんかはあそこはつくれないわけですわ  
ね。

星名 道路なんかをつくって寄附しないと  
……。

大鉢 いえいえ、坂道道路の両側ですよ、  
同志社の土地ですよ。

星名 道路のそっち？

麓谷 歩道の両側ですか。

大鉢 ええ。

星名 それはつくりようと思うたらできるだ  
ろうけど。

釜池 あの辺の利用を、なんかできないの  
かという話はよく出てきていますよ。

星名 坂の下のとこね、ブルドーザーで掘  
ついでしょ。あれは女子大の土地です  
ね。

麓谷 あそこですね、整地するぐらいじゃ  
ないですか。

#### 急がれる校地周辺の整備

釜池 それで結局、大学キャンパス周辺と  
いうものが少しずつにぎわってはきているけ  
れども、それは下宿等を当て込んだ、あるい  
は同志社大学の学生を前提にして、たとえば  
ローンができたでしょう。ああいうような  
ものが、いわゆるスパーマーケットの小型  
的なものができる程度でとまっているでしょ  
う。その他そしたら興戸の駅から大学ぐら  
いまで、あの坂の途中に憩いの場所、だべる  
ところがほしい。国際高校と、できたら女子  
大、大学が一つのコアになって働かかけて、

市にも働きかけて、機運を設けてやらないと。  
あそこを何とかしようという声、してほしい  
という声は大きいですね。

大鉢 キャンパスを学生さんの生活の場  
にできるようにする、田辺キャンパスに住みつ  
けるようにするといふ。いまはもう学校へ来  
て、あとはすぐ帰るといふ、あそこに住みつ  
かそうとすると、キャンパスの中では飲食堂  
とか、それから近くにはそういったお店が欲  
しい。しかし、公平に考えますと、現在、学  
生さんも少ないですし、低学年ですから休み  
になりますと、ほとんどキャンパスへ出てこ  
ない。しますと、営業にならないんですよ。  
それが女子大もこちら充実し、工学部も来、  
そして学生さんが来るようになったときに  
は、そういったお店にも、あこで営業しても  
らえる可能性が出てきますし、お互いに相乗  
効果で、そういうのができますと、また生活  
の場になって学生さんが集まり出すと。

釜池 やはり、待たなしようがないかな。

大鉢 そういうアイデアをやっぱり大学の  
方たちが持っていたら、あこのメインス  
トリート、坂の道にいろんなアクティビティ  
ーを誘致していただくということ。大学は土

地を持ってますからね、そういう意味では主  
導権を持ってやってもらえるとは思うんです  
よ。

**星名** 中学、高校は困るんじゃないですか。  
生徒指導でできなくなる(笑)。

**釜池** 困られます？

**土山** どうでしょうね、あんまり変なもの  
でない限り、大丈夫だろうと思いますけどね。

**鮎谷** かつて女子大では食堂の件で他に働  
きかけたことがあるようですが、経済的に無  
理ということで実現しなかったようです。住  
民がいないと無理なんでしょうね。学生相手  
では商売にならない？ というのは、一年の  
間学生が通って来るのは、半分強ぐらいでし  
ょうか。

**大鉢** よその大学というか、外国の大学な  
んかですと、キャンパスにいっぱい人が入っ  
てきますよね。北海道大学なんかはもう観光  
客がいっぱい入ってますでしょう。あこまで  
いく必要ないんですけれども、いまおっしや  
る形で、女子大のキャンパスに休みのときで  
もまちな人、あるいはほかの人が入れるよう  
に、もちろん大学もそうですけど、そうなり  
ますと食堂も——まあ食堂だけ問題にしては

いけませんけど。

**鮎谷** 学生以外の人が入って来るような何  
かをつくればね。

**大鉢** そういう理解がなかなか大学の中で  
は出にくいんですけれども。

**釜池** だからそうすると、いま言ったよう  
なことが実現できればもつと、たとえば大学  
生と国際高校の学生とたまたま一緒にご飯を  
食べ合えるという環境がお互いに行けるわけ  
でね。あるいは大学と女子大の学生が。

**大鉢** それに関連してなんですけど、これ  
もお金の要ることなんですけれども、いま結  
局お互いに行き交おうとしましても、三差路  
を中心に動くんですが、行きにくいんですよ  
ね、大学から女子大へも行きにくいですし、  
国際高校へも。新島記念講堂というのは、女  
子大のキャンパスにありますけど、三校の共  
通施設として百一十周年の記念寄附でつくっ  
ていただいたのです。現在、実際には女子大  
学、国際高校と中学が使われ、大学もたまに  
使わせてもらってます。日常的に使用できな  
いのは行きにくいからではないかと思ってい  
ます。それと、朝、私、学校へ行くときに通  
らせてもらうと、国際高校の生徒さん、もの

すごく遠回りしてあのチャペルに行っておら  
れるんですね。ああいうことを積分しますと、  
ものすごい時間的なロスなんです。当初の  
計画では南西の角に階段があつて、あそこか  
ら自由に出入りできるようであつたと漏れ  
聞いたんです。あのコーナを全部階段にし  
て、簡単に行けるようなことをしていただけ  
れば、もつとそちらへの出入りが自由にな  
ります。しかも国際高校の生徒さんも近しい、  
もつと欲を言えば、国際高校と女子大を陸橋  
かなんかで結んで、交通の危険にさらされず  
に、生徒さんが礼拝に朝行けると良いと思っ  
ています。

**釜池** いまの問題、国際高校のほうでは働  
きかけたことあるのですか。

**土山** そういうものをぜひ欲しいというこ  
とは言ったことはありますが、非常に費用が  
かかるということで認められませんでした。  
現にいまも毎朝高等学校の礼拝をして、終わ  
って帰ってくるときに、大学生の流れと国際  
高校の生徒との流れとぶつかるんです。晴れ  
ている日ならまだしも、雨の日なんか両方か  
ら傘をさしていると、もう取拾がつかなくな  
る。

**大鉢** これも聞いた話ですが、来年は工学部が行きますね。そうしますと、工学部の学生さんは一校時から学校へ来るケースが多いので、いままで以上にあそこは込むんですよ。ですからその辺はぜひ考えていかないと。

**星名** そこへもつてきて、出勤の車が来ますね。

**釜池** そうですね。

**大鉢** 陸橋ぐらい最低つくってもらって、そしてあの辺の、人の流れと車の流れを整理する必要はあります。

**臈谷** 女子大の正門は今のところいちばん奥のところにあります。遠いので実際に正門を使う人は少ない。あそこを使うのは車で行く教職員ぐらいじゃないですか。あとの人はみんな音楽学科の横の階段か、もうちょっと手前のそれを使っています。しかし、これからはいずれも仮のもので、将来は今の新島記念講堂がある所に図書館を建てて、その横に正門を設けるといのが当初の計画であったように聞いております。

**星名** 体育館の横？

**臈谷** ええ、あそこまで行く人、ほとんどというか、まず車以外の人はみんなこつちか

ら行つてますからね。

**釜池** 女子大にはいわゆる正門というものは本当はないんだと、いまのは仮の正門だという話のようです。結局女子大に行きにくいのは正門がないので行きにくいところもあるんですよ。

**臈谷** 先生おつしやるように、新島記念講堂の脇のところのいまテニスコートにしていくところ、どうせいずれはだめになるから、あそこに大きな階段でもつくっちゃえば、学生も上がりやすいし、礼拝にも、ということになると思うんですがね。

**釜池** もちろん女子大学の中の人たちも感じていてことでしょうけれども、われわれ部外者が見ても、あの興戸から真つ直ぐ来ている道に面するところに正門があつてしかるべきだというふうに感じる。

**臈谷** そうですね。それでただ、女子大の場合には将来家政学部も移るんじゃないかという不確定な要素がありまして、そうなると家政はもつと南のほうになるわけで、そうすると一つの考えとしては、あの坂をだらだら歩くのはかえって遠いというイメージを与えているから、もういつそいちばん下の道路の

脇ぐらいに正門をつくっちゃって、キャンパスの中を歩くという形にすれば遠いというイメージが緩和されるのではないかとという考えも一つあります。

**大鉢** そうしますと、大学との交流を考えると西南角をなんかの手段であけていたたくといいですね。正門じゃなくていいんですが……。

**釜池** だからそうなると、南のほうに正門が来るといふことですね。

**臈谷** 道路からキャンパスというイメージと、あの坂をずつと上がってから入るといふイメージじゃ気分的にだいぶ違うと思います。

**釜池** 神戸女学院ですか、入ってからアプローチが長いですね。ああいう感じですつといけば女子大学へ通じる。

**大鉢** それは一つのアイデアですね。

あと、大学の問題ですけれど、先ほどの国際高校と女子大とのブリッジの話をさせてもらったんですけど、結局大学生が通学するためを考えると、ブリッジを大学の予算でも作れば大学の通学はものすごくスムーズにいくようになりますね。

**釜池** それからあそこ恐らくブリッジにしない、これから困るだろうと思います。というのは、山手幹線が近い将来もし完成したら、あそこの交通量はものすごく多くなると思いますよ。

**星名** 当然信号はできるし。

**釜池** 信号は当然できるでしょう。それで、しかもスピードの出せる道ですからね。どうしても交通の安全を考えると、ブリッジなんかが必要になってくるのでは。

**星名** いま女子大の守衛さんがあそこで流れをとめて、車を入れたりしてくれているからいけるけど、あれがなかったら入れない。

**釜池** これは大学関係者だけでなく、これから山手幹線ができると、一般の通行、公道としてあそこが頻繁に使われることになる。

**星名** あそこは事故多いしね。

### 京都の文化との接点

**臈谷** それに学生が余りにもキャンパス周辺のことを知らない。そこで私はこの数年、森浩一先生のお世話を得て少人数クラスだけは天神山古墳へ連れていって、説明をうけ、

そのあと同大の考古学の陳列室を訪ねてそこで説明してもらおうということをしています。するとここにもこんな文化がある、見直した、という学生がけっこういるんですよ。またときどき普賢寺まで連れて行くこともあります。ここへ行って帰って来ると九十分でキチキチです。

いっぽう学生は京都市内のことも知りた。つれて行ってほしいと告げますが、九十分では叶えられない。そこで講義でせいぜい京都の話をし、各人自由に行ってもらおう。その点で考えるのは、せめて京都の三大祭りぐらひは学校を休みにしたら、ということ。そして学生が自由に祭りを見るようにしてやったほうが……。今出川ですと、適当に時間調整して各人で行くことも可能ですが、田辺は無理。それが京都にある大学のよさだと思えます。

**釜池** 結局地方から来ている学生なんかは、田辺というキャンパスは京都から少し離れていると思うても、同志社大学というのは京都にあるというイメージで来るわけですよ。そして大学にあこがれる部分はあるんだらうけども、京都にあこがれてくるわけ。し

かし、実際入ってみたら、京都と奈良の間のこんなことだと。京都というものに対するイメージと全然違うイメージを見て、田辺キャンパスをとらえてしまおうわけですね。

**大鉢** でも、先生、交通の便がいいのですから区別せずに二つのキャンパスを一緒にして、いまおっしゃるように、京都の行事を大いに田辺で学生さんに学ばすという。

**釜池** それでいま臈谷先生がおっしゃったように、そういう学生も非常に多いわけですよ。同志社へ来ることは京都へ来ることなんだと、京都の文化に触れることなんだと。そうしたら、その思いはやはり大切にしないとけないでしょう。そしてその期待にこたえる一つの方法として、三大祭りは今出川であろうと田辺であろうと、休みにするかどうかは別としても、できるだけそれを見るなり、参加できるような方法を考えたらどうかということ、ぼくは賛成ですね。

**大鉢** 私ごとで悪いのですが、私は京都の高等学校におりまして、御所の近くだったものですから、三大祭りのうち二つは御所を出発しますね。ですから社会の先生なんかには、われわれ生徒のとき、プラランクにしてくれて

要求してきましたね。またいい先生でね、休みにしてくださって、われわれはバツと遊びに行くほうが多かつたんですけど、そういうチャンスね。

**脇谷** これはだから学生にもそういう目を向けてやると行くんですよ。そうでなく勝手に行けというと、なかなか学生は行かないもんです。ですから私はたとえば京都の三大祭りの話なんかも授業の前にして、本当は祭りに行かせたいんですが、そこは授業がびつしり組まれていて動きがとれないということで、なかなか行く機会がないのです。寺とか年中行事などの話をいくら口で説明しても限界があり、本人が行って自分の眼で見るほど確かなことはない。だからそういうものに触れる機会を作ってやるのが大切だと思えます。そうすると、京都に来て学んでいるという意識が強くなると思うんですね。

## 地域との交流

### — 公開講座・文化週間の活用

**釜池** 賛成ですね。それで、いま話が出てきましたから、田辺キャンパスの地域との交流といえますか、たとえば大学のほうでは一

九八八年度からですけれども、田辺映画祭というのを外国映画が多いんですけどもやっているんです。それは何のためにやっているかというと、そもそも田辺キャンパスの活性化のために企画しているんです。それから、三年前になりますけれども、一九九〇年からは外国文化週間というものを設けたわけです。そして九一年から今度は同志社大学公開講座というものを設けています。

これらは大学と地域の方々との文化交流の接点になっている、あるいは勉強したいという人たちの接点になっているかという点、ちなみにどういう数字が出ているかというと、映画祭のほうは、八八年からことしの上半期（前期）までで一万六千九百二十八名が映画に來ているのです。そしてそのうちの九〇％、約一割、これは一般の方です。これは田辺周辺の方、それから京都市内、奈良の方面から來られる方も当然いますけれども、そういうことを含めて九〇％。それから外国文化週間は、この九〇年から九三年の上半期までで四千九百四十一名、約五千名が文化週間に参加しております。そこではどういうことが行われたかという点、九〇年度は東ヨーロッパ、ドイ

ツ、フランス、こういうものを対象にした講演等の文化週間、九一年度はアメリカ、アジア、それから九二年はヨーロッパ、ロシア、そして九三年度はいまの場合は前期だけでスペイン、ギリシア、こういう国々、あるいは地域を絞って、とくに講演、あるいは映画も中に入ることもありませんが、を主とした週間を設けてやっているのです。これを公開して、地域の方々、一般の方々、大いに歓迎しているわけです。そこで外国文化週間にも約九〇％の一般の方々が來られているわけです。そうすると、約一割が映画祭とか、外国文化週間に地域の方が來られている。これはかなりの成果だと思えます。

それから九三年度からはこれは同志社大学が主催になりました、公開講座をやっています。それで九三年度は「人と自然—変貌する地球環境」という自然系列のテーマで講義してきます。それから後期は、やはり「人と自然—生活環境の変化」というテーマ、それから人文関係では「考古学に歴史を読む」というようなテーマでやっております。

今後とも、もつと公開講座というものはふえてくるでしょうし、また、女子大の資料を

読ませてもらいますと、短期大学部がやっていらつしやる、公開講座、行事がありますし、それから女子大学のほうがやっていらつしやる、あるいは総合文化研究所がやっていらつしやるものもある。それから音楽学科のほうもやっていらつしやるものもある。現状はこういうことなんですけれども、地域との結びつきを考えると、これからもこれはもつとつと充実していかないといけないし、この成果も、一度ここでご報告できたらしておいたほうがいいと思ってこれを取り上げたわけです。

女子大のほう、ちよつとこの辺、おつしやつていただけませんか。音楽のことも先ほどちよつとおつしやつてましたが。

臈谷 女子大のほうでは短大とか四年制の英文学科では学生に自主的な発表機会を与えていて、中でも、シエークスピアプロダクションの公演は四十年以上の伝統があります。また各学科では講演会を催したりしています。それを看板を出したりして宣伝しているようです。それから音楽学科に関しては、年に一度、定期公演をしており、今年などは九月に福岡・高松・松江での演奏旅行を予定

しています。これらの催しには地元の人も来ています。ただ、もうひとつ統一的な宣伝をしてないから、どうしても同窓会的なイメージが非常にまだ強いんです。それは入試課がむしろいま頑張ってもつとこういうものを外へアピールして、うちの学校にはこういうことがあるんだということの宣伝も兼ねてやるように動いてますけど……。せつかくやるからには人を大いに動員するためにも宣伝の方を考える必要がありますね。

星名 いままでの映画祭から公開講座も、同志社の中でやっているのに地元の人が来ている？

臈谷 女子大の場合には来ているようです。

星名 今度今年からやっているヒューマンカレッジは田辺の図書館で、こつちのスタッフが全部行ってやってますね。そうすると、あれは定員の数倍の申し込みがありましたね。だから要望は多いわけですよ。

釜池 新聞等ではほくも見かけるんだけれども、もう少し公開講座とか行事、いわゆる一般市民の方も参加できるものについては、もつともつと大学と女子大が一緒になつて、

年間スケジュールがあるでしょうから、何回も出すような形でやってもらわないといけないと思います。

臈谷 広報なんかはむしろいま釜池先生がおつしやつたように、大学が一本化してやつたほうが効率がいいと思うんですけどね。女子大は女子大、大学は大学ということではどうしても限界があり、これを一本化して、とにかくオール同志社の広報を担当するようなセクションがあつてもいいのでは……。一本化してやつたほうが効率がいいと思いますね。

釜池 そうですね。

星名 田辺の広報があるんですよ。あそこへ材料、情報を提供しておけば載せてくれますから、同志社のことも載っているもの。

釜池 田辺町民新聞的なものがあるわけでしょう。

星名 あるある、こんなに来るよ。スポーツやら社会版とか。

釜池 だから、そういうものに当然載っているんだろけれども、どのくらいの大さきで、頻度はどのくらいかという、そこを知らないから。

大鉢 それと大学の人が女子大のことをあんまり知らないですし、国際高校の行事を知らない。先生おっしゃるように、この田辺共通の一本化したものがあると思います。

国際高校もおやりになっていますよね。お聞きかもしれませんが、そういう行事を……。

土山 そうですね。

大鉢 先生、その広報に関しては興戸の駅に広報ボードができていますよ。あれはどのような経過かは知りませんが、大学のいまおっしゃる広報関係のポスター、いまの公開講座とか映画祭とか、張られています。

釜池 それじゃ興戸だけやなくて、新田辺にも三山木にも、作った方がいいですね。

田辺町がつくりました「平成二年十二月三山木地区街なみ検討委員会報告書」というのが大学にもコピーが来ているのです。その三山木地区だけの部分をちよつとコピーしてお手元に配つたんですけれども、これは三山木地区を開発するということを前提にして、そうしたならば、どういうまちづくりがイメージできるかということを書いたものなんです。

す。きょう、時間がありませんから、こういうことまであまり突つ込んでできませんけれども、このページのあとに、どういうふうを開発するかというビジョンを全部書いたものがあるんです。それでそこにはご承知のように、三山木から七百メートル南へ奈良寄りに行つたところに大きな車庫ができる。そのところにも駅もできるということになりましたね。それができるときに、三山木を開発して、

そしていまのJ・Rの上田辺、あそこの駅と近鉄の三山木駅をドッキングする。そしてプラットホームを立体化して乗り換えできるようにするということと、それから三山木からずつと普賢寺に渡る道路、あそこを地下を潜つて、結局木津川から来た道をいまの田辺、三山木の駅のところで下へ潜つて、そして向こうへ行くというような案と、それとそれの予想図、全部かいたものがあるんですね。そういうものをぼくは見せていただいたんですよ。だけど、そのためには周辺の整備で土地の売却やらいろいろな問題が出てきて、非常に難しい問題があるようです。そしてあそこには大きなバスプールをつくる。そして車庫もできるんだから、三山木に急行も停車するよ

うにするというようなことを二、三年前、工学部移転のときとあわせていろいろと話があったときに、そういうお話も上がつてたんです。しかし、工学部移転時期にはとてもそれは間に合わんだろうと。けれども、ビジョンとして田辺町はこういうことを描いているということ。星名先生なんかはもつと詳しい中身を知っているんだろうけれども、どうか、その辺は。

星名 ただ、もつともつと前から狛田とか祝園のあたりを開発する話があつて、それだから京信があわてて三山木に支店をつくつた。だけど、それが取り消しになつて、京信の支店は小ぢやいままで、そういうので前からずぶつているけれども、駅はできるんだから車庫が、だから近い将来実現しますよ。

釜池 今後の大学の交通のアクセスということを考えて場合、興戸にはこれ以上あんまり期待できない。そうすると三山木の開発を期待するということが、この期待が大きいと思うんです。それをいかに早く実現していただくかということにかかっている。そういうことを今後、大学、国際高校を含めて大いに近鉄と田辺町に働きかけることと、田辺町と近

鉄にも大いに協力いただきたいということ  
をとおにお願いしたいです。

臚谷 それと国際高校、同志社大学、同志  
社女子大が同じ同志社でありながら交流が意  
外とないんですね。お互いに知らないこと  
が多すぎるので、その辺もひとつ交流をね。

大鉢 交流をどうするかですね。まずは情  
報の交換からでしょうか。

臚谷 恐らくこれから授業なんかでも乗り  
入れて、お互いにカリキュラムを合わせて取  
り合うというようなことを考えていくという  
ことです。そういうのはやはり大事なこ  
とでしようね。

釜池 若年層の人口減少、大学教育改革を  
目指した設置基準の簡素化、大綱化が図られ  
たことなど、日本の教育界は二十一世紀に向  
って大きなうねりの中にあるようです。この  
座談会で皆さんが話して下さった様々な提言  
が、このうねりに押し流されることなく、田  
辺キャンパスの一層の活性化・充実の糧と  
なることを希望して、このへんで終ることに  
いたします。ありがとうございました。

(一九九三年八月三日収録、於有終館担当理事室)

## 『同志社百年史』について

「通史編」(全二巻)

同志社百年の歴史を五つに時代区分し、  
次の五部から成っている。

第一部 創業と成育(明治前半期)

第二部 キリスト教教育の受難(明治後  
半期)

第三部 大学への道(大正期)

第四部 戦時下の学府(昭和前半期)

第五部 再生と発展(昭和後半期)

上野直蔵総長は「通史編」の「序」で、  
「同志社における徳育の基礎であるキリ  
スト教は、それがキリスト教たるがゆえ  
に、少なくとも一九四五年にいたるまで  
国粹の権威筋から胡乱な目でみられ、疑  
問視され、敵視されてきた。」(中略)

同志社を護るための先人たちのすさま  
じいまでの攻防は、まさに一つのドラマ  
であり、読むものをして緊張と畏怖の念  
を起こさせるであろう。この書は同志社  
の犯した数々の失敗や恥辱の部分をも隠  
すことなく記している。」と述べておられ  
る。ラットランドのグレイス教会におけ  
る新島襄の、学校設立に関する訴えを起  
点とする「通史編」は、確かに、キリス

ト教主義をめぐる同志社の攻防を軸に展  
開されているといえよう。もちろん同志  
社の諸制度や諸学校の変遷、そこで生き  
た学生生徒を含む諸先輩の動向などは、  
それぞれ独自に、読者に訴えるものをも  
つはずである。

「資料編」(全一巻)

「通史編」の叙述に用いられた基礎資  
料およびそれに関連のあるものを中心に  
編纂されている。同志社開業関係にはじ  
まり一九七五年度までの主要な資料を取  
録、原資料による同志社百年史として  
よく、それ自体自立性をもっている。取  
録資料三五〇点、従来活字になっていた  
かったもの、すなわち未公開資料が数多  
く含まれており、読者は同志社史の新し  
い一面を見出すであろう。研究者の期待  
にも応えうるものである。詳しい同志社  
年表を添えてある。

「通史編」一、六五八ページ。

掲載写真 三二五点。

頒価・六〇〇円

「資料編」二、一九二ページ。

頒価・二二〇〇円

発行・学校法人同志社  
取扱い・同志社収益事業課  
(二〇〇七五一二五一―三〇三八)